



施設園芸技術指導士としての抱負

吉田 雄司 カネコ種苗(株) 千葉支店

私はカネコ種苗(株)で養液栽培・施設資材関係の営業を担当しております。当社は種苗メーカーとして、種苗・水耕栽培システム・園芸・農薬・農業資材の各部門があり、「農業関連の総合企業」の方針のもと群馬県の本社を中心として全国展開をしております。

私が施設園芸へ興味を持ったのは高校3年の冬に自宅にあった地元の施設栽培のトマトを食べ感動したことがきっかけでした。大学入学後には農業ロボットの研究室で施設栽培の勉強を始めました。卒業後の2005年に入社し、温室の設計・プランニングに興味があると志願し配属され現在に至ります。

入社後の20年間で、気候変動や社会情勢の変化、デジタル技術の進化など農業を取り巻く環境は激変したと感じます。私自身2014年の関東の大規模雪害の際には山梨県で、2019年の東日本台風の時には千葉県で被災し、農業用施設の災害復旧に携わりました。その際、数十年かけて作られてきた産地の景色が一晩で変わる事の恐ろしさを経験し、気候変動による災害対策の必要性を身をもって感じました。また、資材・肥料その他高騰による栽培経費の増大など取り巻く環境が変化し、生産者の収入が減少していくのも感じています。離農という言葉がよく聞こえるようになったのもここ15年ほどのことではないでしょうか。

このような経験もあり、私の施設園芸技術指導士の抱負としては、持続可能な営農活動を生産性向上・付加価値向上・環境負荷低減の3本柱を軸に推進し、さらに魅力ある施設園芸の普及に努めたいと考えます。これはスマート農業技術活用促進法の理念に明記されている事ですが、施設園芸の発展には欠かせないと考えます。私の考える3本柱については下記の通

りです。

①生産性向上

農業従事者の減少や生産しても収益が上がらないという問題を解決し、食料の安定供給を継続するためには、施設栽培の環境制御・自動化などを最大限利用し、生産性向上による収量増大・省力化が必須だと考えます。また、これまでの働き方を変え魅力ある産業にするべきだとも考えます。

②付加価値向上

品質・味の向上だけではなく「安心」の提供も含め、栽培管理のデジタル化や栽培環境を最適化し付加価値向上を推進する。そして、輸出も含めより収益が向上する栽培を推進する。また、独自のブランド創りも必要だと考えます。

③環境負荷低減

CO₂削減だけでなく減農薬・減化学肥料などにより、より環境に優しい施設栽培を推進する。そして農業の環境保全への貢献を前面に出し、農業の素晴らしさを伝える。みどりの食料システム戦略等に沿って環境面でも持続可能な栽培形態を実現することが重要であると考えます。

これら3本柱のもと、施設園芸が「魅力のある儲かる農業」として位置づけられ、持続可能な、時代に合わせて変化し発展していく産業となることを願ってやみません。

今回、施設園芸技術指導士に認定頂き、これまでの経験や知識をもとにさらに学びを深めたいと考えます。そして、施設園芸のさらなる発展に向け微力ながら日々精進してまいる所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。